

# 10 京都における幹線道路網の整備促進及び財源の確保

(国土交通省)

## 1 道路整備における京都市の現状

都市の均衡ある発展を図り、また交通渋滞を解消し安全で円滑な道路交通を確保するためには、道路事業及び街路事業による幹線道路網の整備が不可欠です。

京都市では、国・府道改良率、都市計画道路整備率が指定都市平均を大きく下回り、離合困難箇所等の改善や地域活性化を促進する一般路線の整備が求められています。

## 2 課題

京都市では、「一般国道 162 号（栗尾バイパス）」、「京都広河原美山線（二ノ瀬バイパス）」、「阪急京都線連続立体交差化事業」及び京都第二外環状道路に接続する「大山崎大枝線」などの主要事業について、数年内の完成を目指しており、現在、事業費、施行量共にピークを迎えています。

特に栗尾バイパスや二ノ瀬バイパスなどの合併建設計画事業は、平成 26 年度に発行期限を迎える合併特例債を財源としており、期限内に完成させる必要があります。

さらに、高度経済成長期に供用を開始した橋梁が近い将来、大量に更新時期を迎えることから、道路舗装修繕と共にアセットマネジメントによる計画的・継続的な更新・維持管理に必要な事業費が増加するなど、今後の継続事業量に対応した財源の確保が重要な課題となっています。

このような中、平成 22 年度道路局所管事業に係る補助金配分につきましては、所要額の約 81%を確保いただきましたが、不足額分については、工事及び用地買収箇所・実施年度の変更などの緊急避難的な工夫により、本年度については、事業スケジュールに支障が生じないよう努めているところです。

つきましては、所要の補助金が確保できるよう特段の御配慮を要望します。

## 3 要望事項

- (1) 幹線道路網整備に必要な予算の確保。特に合併建設計画事業など各事業の完成年度を遅らせないために必要な道路事業予算の確保
- (2) 京都高速道路関連事業完成に伴う街路事業費の減少分について、道路事業への充当による予算総額の確保
- (3) 橋梁・道路舗装の更新・維持管理などの安全対策に必要な予算の確保

所管の省庁課：国土交通省（都市・地域整備局街路交通施設課、街路交通施設課整備室、道路局国道・防災課、環境安全課、高速道路課）

京都市の担当課：建設局 建設企画部 建設企画課長 大西功 TEL 075-222-3551

建設局 土木管理部 調整管理課長 徳田達弥 TEL 075-222-3568

建設局 道路建設部 道路建設課長 市橋英人 TEL 075-222-3577

建設局 事業推進室 重点路線担当課長 西靖彦 TEL 075-213-3450

建設局 事業推進室 立体交差化担当課長 瀬戸博望 TEL 075-213-3450

# 道路整備における京都市の現状

離合困難箇所及び路面凍結危険箇所の改善のためバイパス整備等が必要



## 京都市の道路整備状況

(H20 年度末現在)

○国・府道改良率 **約62%**  
(政令市平均 約83%)

○都市計画道路整備率 **約69%**  
(政令市平均 約78%)

まだ多くの整備の必要な箇所が残っています！ (政令市平均値は H19 末現在)

## 課題

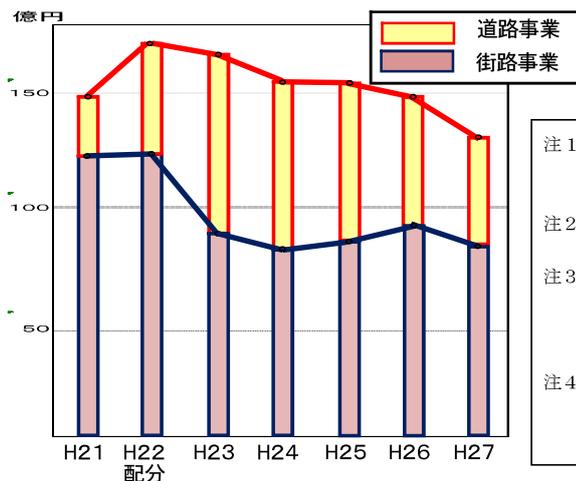
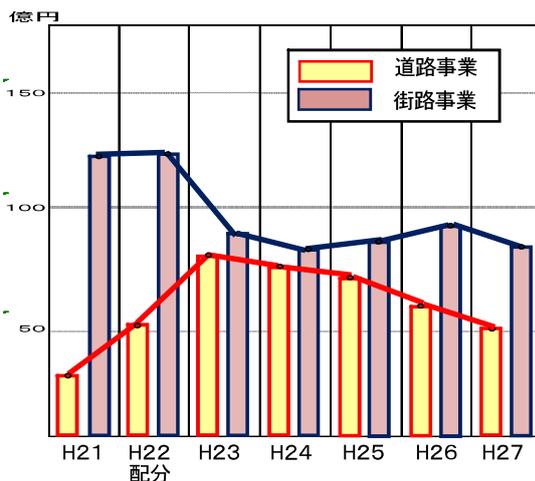
### 1 ピークを迎えている主要事業

一般国道162号栗尾バイパス	平成26年度完成予定
京都広河原美山線二瀬バイパス	平成26年度完成予定
阪急京都線連続立体交差化	平成27年度完成予定
大山崎大枝線	平成25年度完成予定

栗尾バイパス、二瀬バイパス等の合併建設計画事業では、平成26年度に発行期限を迎える合併特別債を財源としており、期限内に完成させる必要がある。 → 事業費を確保し早期の整備が必要

### 2 本市における道路事業及び街路事業に係る事業費推移

道路事業は、栗尾バイパス、二瀬バイパス等の主要事業がピークを迎え、H23～H26年度の事業費がH22年度当初配分額と比較し、大幅に増加している反面、街路事業は、京都高速道路関連事業が完成し、H23年度以降、事業費が減少する。このため、道路事業費及び街路事業費を合算するとH23年度以降についても、H22年度当初配分額の範囲内に収まる。

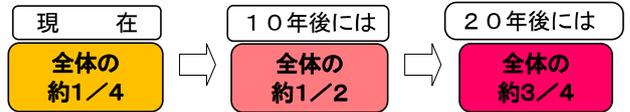


- 注1 事業費については、H22.5 時点の概算額
- 注2 H22年度は、国当初配分額
- 注3 道路事業は、栗尾バイパスの国債枠(トンネル本体工事費)を含む
- 注4 街路事業は、区画整理事業を含む

### 3 大量に更新時期を迎える橋梁

京都市では約2,700橋にのぼる道路橋を維持管理しており、高度経済成長期に供用を開始した橋梁が全体の約1/2を占めています。

さらに供用開始後50年を経過した橋梁数は、



老朽化が進行する橋梁



改修



### 4 舗装修繕

京都市では「交通量1万台/日以上」の「主要な幹線道路」、「山間部の幹線道路」510kmを対象に路面性状調査を実施した結果・・・

評価基準の数値となる維持管理指数(MCI)について、「修繕が必要」(MCI ≤ 4)とされる割合が約10%を占めています。



維持管理指数(MCI) = 2.9